



PORSCHE

24. November. 2016

Vol.135/16

ル・マン優勝トリオが新しい世界チャンピオンに

ポルシェがFIA世界耐久選手権（WEC）のドライバーズタイトルを獲得

ポルシェ AG（本社：ドイツ、シュトゥットガルト 社長：Dr.オリバー・ブルーメ）のワークスドライバー、ロマン・デュマ（フランス）／ニール・ジャニ（スイス）／マルク・リーブ（ドイツ）のトリオは、FIA 世界耐久選手権（WEC）の 2016 シリーズ最終戦、バーレーン 6 時間レースにおいて 6 位に入賞し WEC のドライバーズタイトルを獲得しました。今シーズン、デュマ／ジャニ／リーブ組は開幕戦のシルバーストーンとル・マン 24 時間レースで優勝しています。このデュマ／ジャニ／リーブ組は、3 シーズン連続でポルシェ 919 ハイブリッドを共に駆りました。2014 年から今日に至るまで、彼らは好不調の波を乗り越えて数々の偉業を成し遂げてきました。2014 年、彼らは、後に成功を収める革新的なル・マン プロトタイプにとって初を含む 3 回のポールポジションを獲得しました。そして、デビューシーズンの最終戦となる 2014 年のブラジルで 919 の初優勝を成し遂げ、ドライバーズ世界選手権で 3 位になりました。2015 年も、再び 3 回のポールポジションと 1 回の優勝に加え、同選手権で 3 位という成績を残しました。息を呑むような 2015 年シーズン最終戦のバーレーンでは、彼らが優勝した結果、もう一台のポルシェ 919 ハイブリッドがドライバーズタイトルを獲得して世界チャンピオンになることができました。

ポルシェ AG 社長のオリバー・ブルーメは次のように述べています。「ポルシェにとって最高のシーズンの締めくくりであり、ロマン・デュマ、マルク・リーブ、ニール・ジャニを心から祝福します。この 3 人が 6 月にル・マンで優勝を果たし、LMP1 チームが上海でマニファクチュアラーズタイトルの防衛に成功し、今回ドライバーズタイトルも獲得したことは、過酷だった WEC シーズンの有終の美を飾るものです。2015 年に続き、ポルシェは全てのタイトルを手に入れました。チームの一人一人の努力をととても誇りに思い、敬意を表します。」

世界チャンピオントリオのコメント：

ロマン・デュマ（38 歳）：「シーズンを世界チャンピオンとして終わられるなんて最高です。これは、シーズンの始めに誰もが夢見ることです。この成功の大きな要因は、素晴らしいチームメイトと、優秀なエンジニアを抱える素晴らしいチームのおかげだと思います。たとえ望んだ結果が得られなくても、誰もが一所懸命に働いてきちんと仕事をこなし、それをずっと続けました。これも耐久レースにおいて重要なことです。」

ニール・ジャニ（32 歳）：「ル・マンと世界タイトルを手に入れることができた今年は、いつまでも忘れられない本当に信じられない年でした。1 シーズンで両方を獲得できるなんて最高です。ル・マンの後、少し苦労しましたが、最後にタイトルを獲得できました。それが何よりも重要なことです。」

マルク・リーブ（36 歳）：「困難な 1 年でした。シルバーストーンで優勝し、さらにこの選手権でチャンピオン獲得のために極めて重要なル・マンで劇的な勝利を収めた後、私達は多くの不運に見舞われ、勝つことができませんでした。その代わりに、落ち着いて出来る限り多くの

ポイントを獲得する必要がありました。だからこそ、このタイトル獲得が嬉しいのです。ポルシェは今年もまた、ル・マン 24 時間、マニファクチュアラーズタイトル、ドライバーズタイトルなど、全てを勝ち取りました。私達がこの成功に貢献できたことは、とてもいい気分です。特にシュトゥットガルト生まれの私としては、とりわけ誇らしく思います。ポルシェでこれを成し遂げるといふ夢が、今日、実現しました。」

世界チャンピオンチームメンバーの略歴：

ロマン・デュマ

ポルシェのワークスドライバーとしてル・マン 24 時間を含めた FIA 世界耐久選手権にフルシーズン参戦するだけでは、ロマン・デュマを十分に満足させることはできません。彼はその合間を縫ってダカールラリーで奮闘し、世界ラリー選手権や欧州ラリー選手権のラウンドに挑んでいます。2014 年、そして 2016 年にも、米国コロラド州の有名なパイクスピーク・ヒルクライムにプロドライブで参戦して総合優勝を勝ち取りました。「ワークスドライバーとして稼いだお金を、個人的な事に使い果たしました」と、フランスのセヴェンヌ山脈の南に位置するアレス出身のロマンは認めています。

彼は、レーシングドライバーになるために生まれてきたような人物であり、ポルシェとともに育ちました。父親は、欧州ヒルクライム選手権でポルシェに乗っていました。「私が幼かったころ、父は私をポルシェ 962 ル・マン レーシングカーの中に座らせました。父がドアを閉めると、私は『すごい、これは飛行機なの？』と思いました」。この親にして、この子あります。ロマンとパートナーのエリシアは、2013 年 11 月 9 日に小さなギャバンを家族に迎えました。ロマンの情熱は幼い息子に伝わっています。ロマンの写真の中に、ギャバンが 911 レーシングカーのドライバーズシートに立ち、ステアリングホイールを掴んでいる姿があります。

ロマン・デュマは、24 時間レースで 8 回の総合優勝を遂げています。その中で最も新しいものが、ポルシェ 919 ハイブリッドでの今年ル・マンの勝利です。2010 年には、ティモ・ベルンハルトとマイク・ロッケンフェラーと組んでアウディに乗り、ル・マンで優勝しました。ポルシェでは、ニュルブルクリンク北コースにおける 24 時間レースで 4 回、スパサーキットで 2 回優勝しています。そして今年、初めての世界チャンピオンにもなりました。

ロマンは、ル・マンを第 2 の故郷と呼んでいます。16 歳の時、ここで若い才能を発掘するコンテストに優勝し、そのままル・マンの学校に通い、新しい友人を作り、スポンサーを見つけ、運転免許試験に合格しました。それから毎年、24 時間レースの主催者であるフランス西部自動車クラブ (ACO) からレーシングライセンスを取得してきました。ル・マンは、常に状況が異なり、常に劇的です。地中海性気候と大西洋の低気圧の谷の影響のため、24 時間レースでは激しく執拗に雨が降る傾向にあります。デュマは、ル・マンの隅々まで知り尽くしています。2016 年は、彼にとって 16 回目のル・マンでした。「ル・マンは、毎回、最高のレースになります。もちろん速く走らなくてはなりません、同時に、チームプレイヤーになり、車両に気を配らなくてはなりません。それに、最高のチームが必要です。これらのひとつでも欠けると上手くいきません」と、彼は述べています。

ニール・ジャニ

彼はカルマを信じています。そしてこれまでの行いが 2016 年に報われたということを確認しています。このインド系スイス人ドライバーは、かつてのレーシングカードライバーのイメージそのものです。すなわち、ロボットというより美食家、駆り立てられているというより気

楽。少なくとも、コックピットの外にいる時はそのように見えます。

週末にポルシェに乗って出かけることにいつも夢中でした。ジャニは次のように語りました。「私には素晴らしい子供時代の思い出があります。日曜日ごとに、姉のレーナと私は父の 911 RS 2.7 のリヤシートに乗り込み、ドライブに連れて行ってもらいました。こうした小旅行は、私達にとって一大イベントでした。その後、私のレース活動に多くのお金がかかるようになったため、残念ながら車を売らざるを得ませんでした。」

ニール・ジャニは、フォーミュラ・ルノーから、GP2、A1GP シリーズ、さらに F1 へと移りました。2004 年、彼は初めてレッド・ブル・レーシングのためにテストを行い、2006 年には、姉妹チームのスクーデリア・トロ・ロツソの第 3 ドライバーになりました。彼はテストに参加し、アメリカン・チャンプ・カー・シリーズと A1GP シリーズでレースに出場しました。2008 年、彼はポルシェ スーパーカップのゲストドライバーになりました。彼は次のように回想しました。「残念ながら、レースを完走する機会は得られませんでした。事前に 911 GT3 を 2 週間走らせなくてはなりませんでしたが、当時 24 歳の私から見て、それは素晴らしい車でした。ものすごいパワーがあり、ステアリングは非常に正確です。性能も印象的でした。」彼は、正確さと計算が好きです。もしレーシングドライバーになっていなかったら、どんな職業に就いていただろうかと尋ねたところ、予想外の答えが返ってきました。「会計士です。数字が好きですから。」

2009 年、彼は初めてル・マンを走り、それ以来、毎年参戦し続けています。2013 年には、スイスのレベリオン・レーシングから LMP1 クラスに参戦しました。2011 年は、同チームでル・マン・シリーズに優勝し、2012 年は、もう少しのところでル・マンの表彰台を逃がす 4 位になりました。2012 年と 2013 年には、「プチ・ル・マン」として有名なロード・アトラントの 10 時間レースで勝利を挙げました。2013 年 6 月からは、ポルシェのワークスドライバーを務めています。「絶好の機会でした。LMP1 プログラムの立ち上げに参加できるのですから。WEC の技術とドライバーのレベルは世界でもトップクラスです。ポルシェといえばレーシングカーです。全てが完璧に調和しています」と、彼は述べました。

F1 を去ったことを寂しく思いますか？「いえ全然。物事は収まるべきところに収まるものです。良い思い出を持って幸せです」。彼は、インディアナポリス出身の美女、ローレンと結婚しました。明らかに、良いカルマは良い結果につながります。たとえば、グランプリの週末に金曜日の練習走行にしか参加せず、残りの時間に仕事がなくとも。

マルク・リーブ

彼はドライバートリオの熱心な分析家です。シュトゥットガルトに生まれ、20 歳の時にポルシェ ジュニアドライバーに選抜されました。それ以来、24 時間レースでの 6 回の総合優勝を含め、世界中でポルシェとともに多くの勝利を祝ってきました。具体的には、ニュルブルクリンクでの 4 回、スパでの 1 回、そして 2016 年のル・マンでの勝利です。2003 年 6 月のある日、彼にとっての人生の夢がかないました。その日から彼はル・マンでレースを戦い、GT クラスで勝利を重ねてきました。2014 年シーズンからは、トップカテゴリーである LMP1 にポルシェで参戦しています。そして今、彼は世界チャンピオンです。

マルクの姓は「愛情のこもった」という意味で、彼はまさにそのような印象を与えます。世界中の異国の地でレースをしていても、彼の堅実な態度は揺るぎませんでした。彼は、2 人の息

子に自分が経験したことを伝えたいと思っています。彼は、ポルシェで正規の資格を有するメカニックだった父親と一緒に、フォルクスワーゲンのバンでゴーカートコースを巡りました。その後、父と息子は、ぼろぼろの一人乗りレーサーを数ミリ秒でも速くしようとしました。もっと新しい車に代えるという選択肢は無く、車に大きな損傷を与えたこともありませんでした。彼は、機材を大事に扱うことを学びましたが、同時に速さも求められました。耐久レースのドライバーにとって、これ以上のトレーニングがあるでしょうか？

ポルシェ ジュニアに選ばれた、マルクはすぐにカレラカップ ドイツで優勝し、ワークスドライバーに昇格しました。しかし、マルク・リーブは、さらに第 2 のキャリアのため、エスリンゲン工科大学で自動車工学を学びました。そして 7 学期を終えてディファレンシャルロックに関する論文を書き上げ、自動車工学の学位を取得しました。在学中も、国際 GT2 タイトルを何度も勝ち取り、ニュルブルクリンク北コースで優勝しました。結婚して、長男が生まれました。マルク・リーブの人生は、矛盾の連続です。また、米国での華やかで魅力的なレースを終えると、家で待つ家族の元へ帰ります。ドライバーとして情熱的で負けず嫌いの精神に対し、エンジニアとしての冷静な分析があります。理論的な知識と実際に車両を制御できるテクニックを兼ね備え、スポーツカーメーカーであるポルシェの魅力的な潜在能力を引き出します。

大学卒業後は、ポルシェ パフォーマンス部門でパートタイムとして働きました。彼が携わった 2 台の車が、911 GT3 R ハイブリッドと 918 スパイダーです。2013 年、彼は、918 スパイダーをニュルブルクリンク北コースで駆り、市販車で 7 分を切るというコースレコードを打ち立てました。さらに LMP1 プログラムは、ドライバーとエンジニアリングの両方の立場で彼を魅了しています。「開発の速度は驚くほどです。若いエンジニア達は情熱的で、私達ドライバーが何か質問すると必ず解決策を見つけ出します。」

世界耐久選手権 (WEC) のポイントは
<http://www.fiawec.com/courses/classification.html>
全レースの結果は
<http://fiawec.alkamelsystems.com>
でご確認いただけます。

<p style="text-align: center;">＜本件に関する読者からのお問い合わせ先＞ ポルシェ カスタマーケアセンター 0120-846-911 ポルシェ ホームページ http://www.porsche.com/japan/</p>
